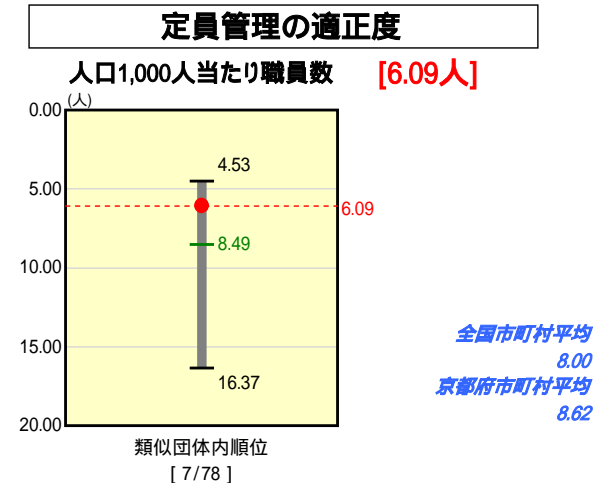
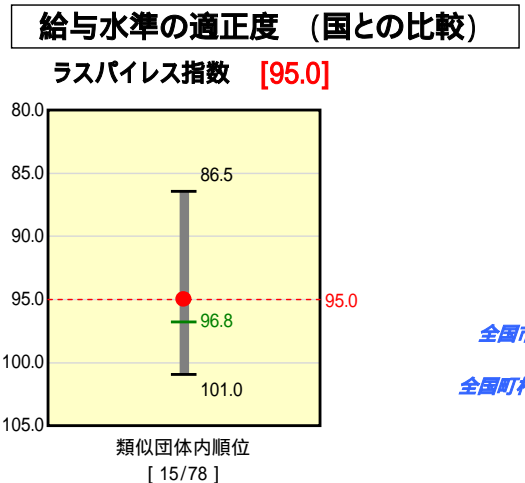
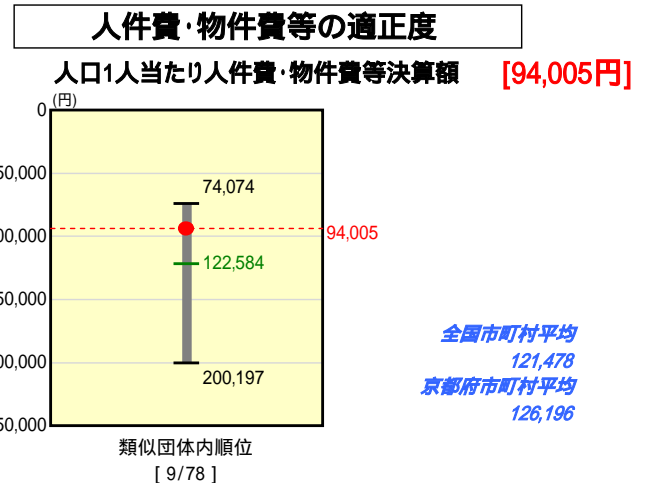
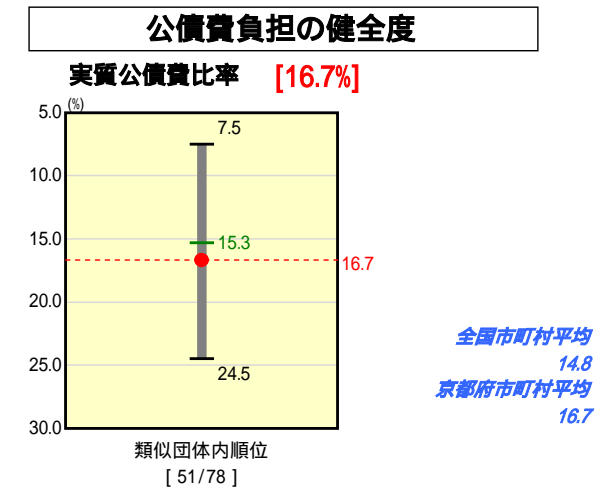
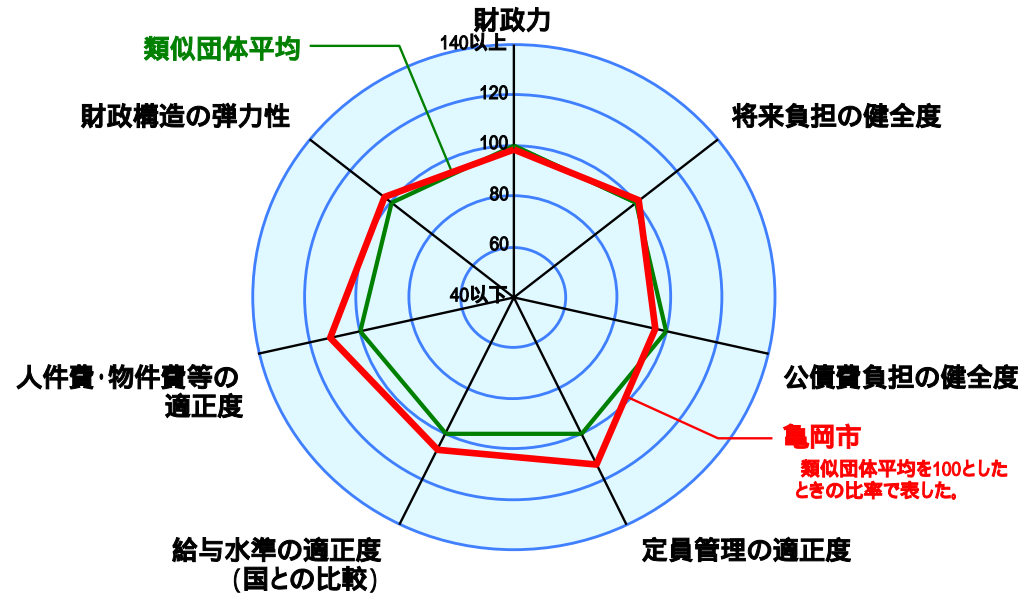
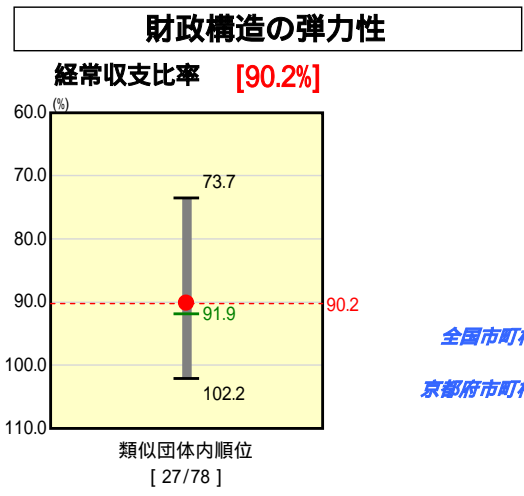
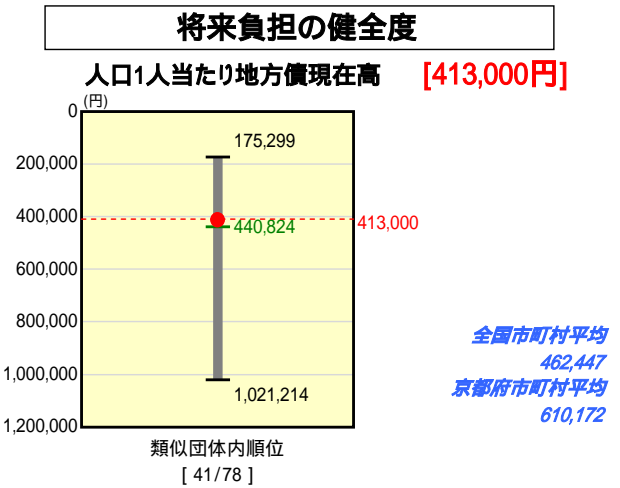
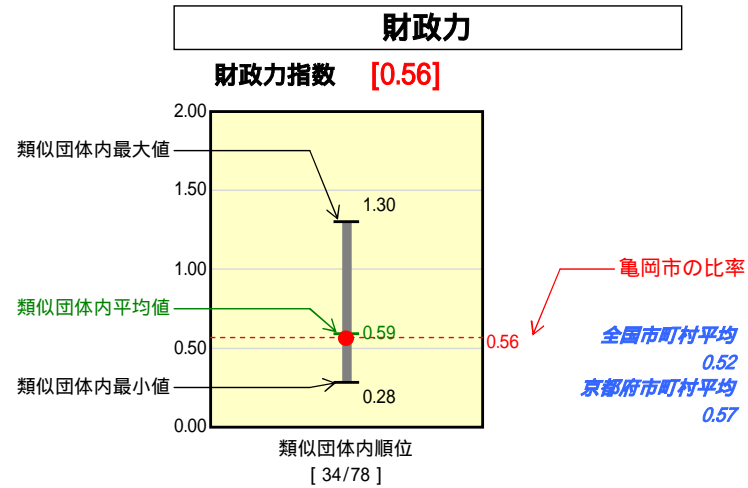


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

京都府 亀岡市

人口	94,356	人(H18.3.31現在)
面積	224.90	km ²
歳入総額	31,126,151	千円
歳出総額	30,697,906	千円
実質収支	347,958	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力(財政力指数)】
基準財政収入額は、長引く景気低迷による個人・法人税の減収等から減少傾向にある。一方、都市基盤整備や各種施設整備等を積極的に行ってきた結果、その費用が基準財政需要額に算入されていることにより、0.56と類似団体の平均を少し下回っている。

【財政構造の弾力性(経常収支比率)】
扶助費及び公債費の増加と市税・交付税等が減少している現状を踏まえ、新亀岡市財政健全化計画により人件費等経常経費の削減等(徹底した内部改革により4年間で約5億円)を図るとともに、市税等について収納率向上に努めており、1.7%類似団体平均をわずかに下回っているが、今後も健全化計画を徹底管理し、財政構造の弾力性の向上に努める。

【給与水準の適正度(ラスパイレス指数)】
類似団体平均96.8、全国市平均97.4のいずれと比較しても95.0は低水準にあるといえる。今後も水準を基本として、より一層の給与の適正化に努める。

【公債費負担の健全度(実質公債費比率)】
平成6年度～平成10年度に実施した大型投資事業に伴う起債の償還がピークを迎えており、類似団体平均を上回っている。今後、新亀岡市財政健全化計画に則して市債発行限度額を設定するなど、新規発行の抑制に努める。

【将来負担の健全度(人口1人当たり地方債現在高)】
類似団体平均をわずかに下回っており、今後も新規地方債発行の抑制を図るなどにより平均を上回ることがないよう努める。

【定員管理の適正度(人口1,000人当たり職員数)】
削減率6%を目標とする第4次定員適正化計画(削減数47人)を策定し職員の削減に努める。今後とも事務事業の統廃合・縮小を行い、職員の資質向上を図るとともに職員の効率的な配置を行う。

【人件費・物件費等の適正度(人口1人当たり人件費・物件費等決算額)】
類似団体平均と比べ下回っている要因として、ごみ・し尿の収集運搬業務、公共施設の運営管理などを民間や公益法人にて行っていることが挙げられるが、こういった経費を含むと当該経費は増加するため、今後さらなる経費の抑制などの検討を行う。